
[成果情報名] ジノテフランの萌芽期散布によるチャノホソガとツマグロアオカスミカメの同時防除技術

[要約] ジノテフランを萌芽期に散布するとチャノホソガとツマグロアオカスミカメを同時に防除することができる。

[キーワード] チャノホソガ、ツマグロアオカスミカメ、ジノテフラン、萌芽期散布

[担当部署] 八女分場・茶チーム

[連絡先] 0943-42-0292

[対象作目] 茶

[専門項目] 病害虫

[成果分類] 技術改良

[背景・ねらい]

消費者の安全志向が高まり摘採芽への農薬散布が困難になっている。また、一番茶ではかぶせ茶の生産が増えており、摘採時期が遅くなり、チャノホソガやツマグロアオカスミカメの発生も増加している。そこで、摘採芽が伸育し始める前の萌芽期に防除効果の高い薬剤を探索し、その防除効果を明らかにし、萌芽期防除技術を確立する。

[成果の内容・特徴]

1. ジノテフラン（スタークル／アルバリン顆粒水溶剤）を一番茶や二番茶の萌芽期に散布すると、一葉期の散布には及ばないが、チャノホソガによる巻葉数を実用上問題ない程度に減少できる（表1）。
2. 本剤を萌芽期に散布した場合、卵期や葉潜り期のチャノホソガは認められるものの、葉縁巻葉期以降のものは極わずかしか認められないことから、本剤は葉潜り期のチャノホソガに対して殺虫効果を示す（図1）。
3. 本剤を萌芽期に散布した場合、ツマグロアオカスミカメに対して高い防除効果を示す（表2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 防除の手引きに掲載し、茶樹病害虫の萌芽期防除マニュアルの資料として活用できる。

[具体的データ]

表1 チャノホソガ防除率

供試薬剤名	散布時期	平成16年一番茶		平成17年二番茶	
		三角巻葉数 (枚/m ²)	防除率 (%)	三角巻葉数 (枚/m ²)	防除率 (%)
スタークル/アルバ [®] リン顆粒水溶剤	萌芽期	10.3 a	79.3	6.9 a	86.8
スタークル/アルバ [®] リン顆粒水溶剤	一葉期	0.7 a	98.7	2.4 a	95.4
DDVP75乳剤	萌芽期	15.7 a	68.7	45.4 b	13.0
DDVP75乳剤	一葉期	3.0 a	94.0	31.0 ab	40.5
無散布	—	50.0 b	0.0	52.2 b	

注) 1. スタークル/アルバ[®]リン顆粒水溶剤は2,000倍、DDVP75乳剤は1,500倍を散布。

2. 異なる英文字間には有意差あり (Tukey : p<0.05)。

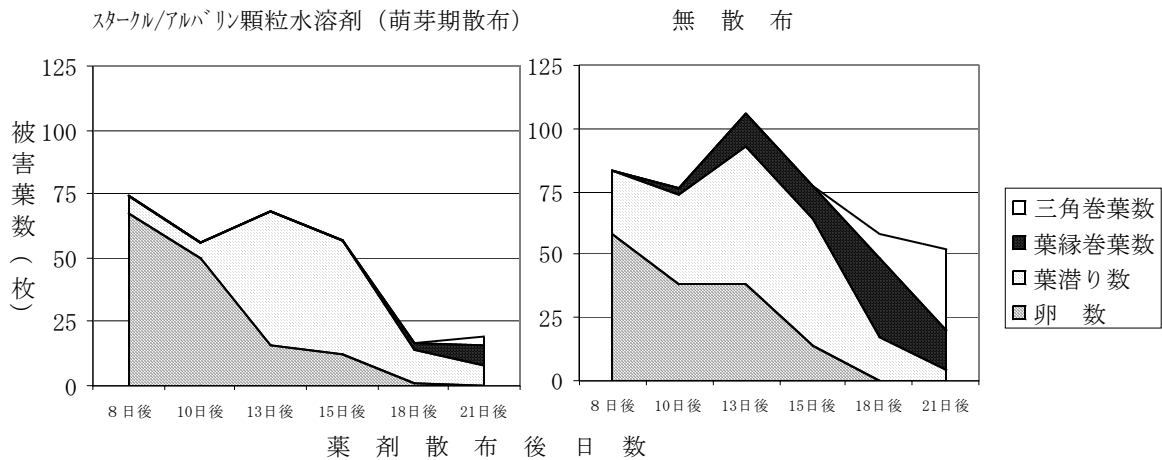


図1 チャノホソガ産卵、被害状況の推移 (平成17年)

注) 1. 各区30芽、3区合計90芽での被害数。

2. 二番茶期での調査。

表2 ツマグロアオカスミカメ防除率

供試薬剤名	散布時期	平成16年一番茶		平成17年二番茶	
		被害芽数 (本/m ²)	防除率 (%)	被害芽数 (本/m ²)	防除率 (%)
スタークル/アルバ [®] リン顆粒水溶剤	萌芽期	0.0	100.0	0.0 a	100.0
スタークル/アルバ [®] リン顆粒水溶剤	一葉期	0.0	100.0	0.0 a	100.0
DDVP75乳剤	萌芽期	4.0	80.0	1.7 a	82.1
DDVP75乳剤	一葉期	0.0	100.0	0.0 a	100.0
無散布	—	5.0		9.3 b	

注) 表1 と同一。

[その他]

研究課題名：新規農薬等の適用性検定

予算区分：法人等受託 (九州病害虫防除推進協議会)

研究期間：平成17年度 (昭和51年～)

研究担当者：吉岡哲也、久保田朗、堺田輝貴、中村晋一郎